

大企業から継続的にイノベーションが創出される  
仕組みの分析の検討について  
(ご示唆いただきたい点)

- 少子・高齢化などによる国内市場の成長制約、コロナ禍、米中の対立等、グローバル市場やサプライチェーンにおける不確実性が一層高まる中、日本が自由で豊かな国であり続けるためには、企業が継続的にイノベーションの創出を図り、国際市場における競争力を発揮していくことが必要。
- これまで本委員会では、企業がイノベーションを創出するための支援として、例えば、経営体制、オープンイノベーションやスタートアップ、産学連携など、イノベーションの創出に求められる共通要素や方法論を中心に御議論を頂いたところ。先般とりまとめていただいた中間とりまとめ 2020「未来ニーズから価値を創造するイノベーション創出に向けて」を基に、現在、企業経営者との意見交換や若手研究者との議論（若手 WG）を行っている。
- 今後、経済産業省としては、大企業から継続的にイノベーションが創出される仕組みをより具体的に考察するべく、過去の NEDO プロジェクトなどから、個別事例、参加した企業や研究者の取組や行動等に着目した分析を行い、継続的なイノベーションに必要な要素について、これまでとは違った視点で仮説の構築を試みたい。
- 例えば、大企業でイノベーションに成功した個人、組織、仕組み等に着目し、技術の確立など成果を導き出した人（研究者）やプロジェクトを成功させアウトプットにつなげた人（プロジェクトマネージャー）、ユーザー視点でビジネス上の問題を解決した人や組織を分析することが考えられる。  
また、コロナ禍における大企業の研究開発や技術の継続・承継性についても日本にとって必要な分野を特定して分析することも考えられる。  
これらに加えて他に着目すべき観点など、心得るべきことについてご意見を頂戴したい。